



TITLE:

京大広報 No. 294

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 294. 京大広報 1985, 294: 679-684

ISSUE DATE:

1985-06-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209390>

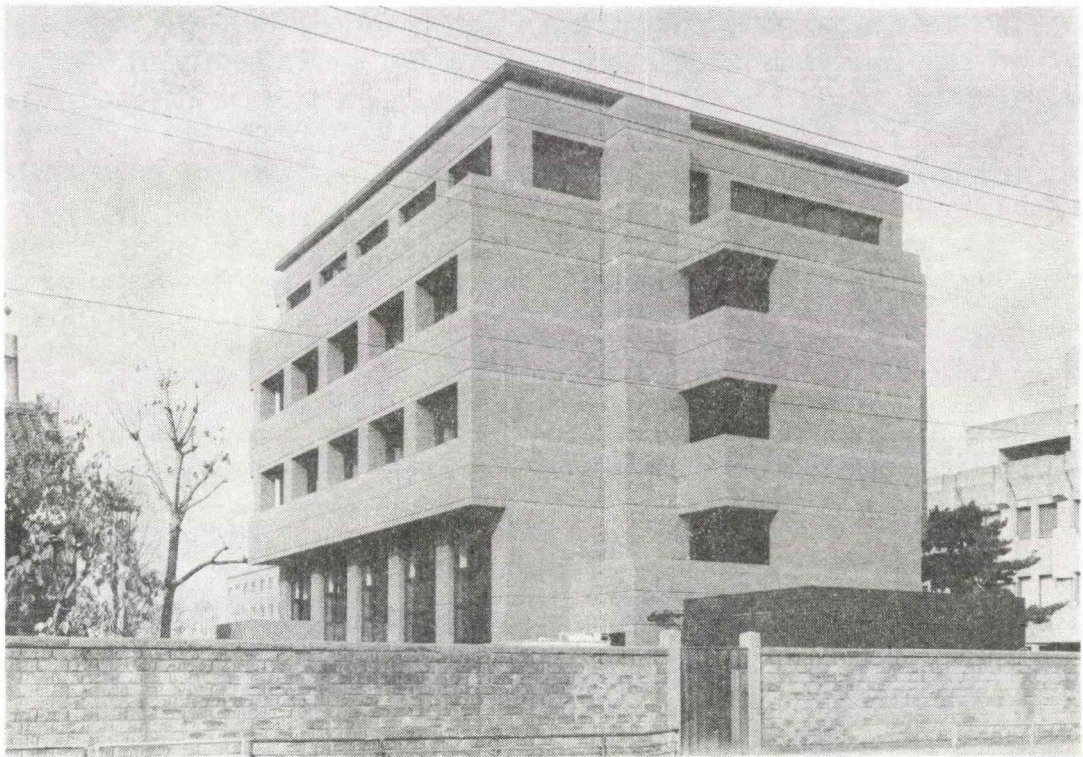
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 294

京都大学広報委員会



竣工した放射線生物研究センター研究棟 —関連記事本文680ページ—

目 次

| | | | |
|--------------------------|-----|-------------------------|-----|
| 部局長の交替等…………… | 680 | 討 報…………… | 683 |
| 創立10周年を迎えた医療技術短期大学部…………… | 680 | 日 誌…………… | 683 |
| 放射線生物研究センター研究棟が完成…………… | 680 | ＜随想＞ | |
| ＜紹介＞ | | 研究所生活30有余年 | |
| 教養部 法政学教室…………… | 681 | 名誉教授 太田 武男…………… | 684 |
| ＜資料＞ | | | |
| 昭和60年度新設の組織・大型設備…………… | 682 | 大学院審議会制規等専門委員会中間報告 | |
| 昭和60年度創立記念行事 | | 「大学院の整備・充実の方針」（別冊）…………… | 685 |
| 学術講演会の開催…………… | 683 | | |

＜大学の動き＞

部 局 長 の 交 替 等

食糧科学研究所長

森田雄平食糧科学研究所教授（食糧貯蔵加工研究部門担当）が6月11日同研究所長に再任された。任期は昭和63年6月10日までである。

創 立 10 周 年 を 迎 え た
医 療 技 術 短 期 大 学 部

医療技術短期大学部は、5月25日（土）午前11時から午後1時まで本短期大学部において関係者多数の出席のもとに創立10周年記念式典及び祝賀会を挙行了した。

式典では沢田敏男学長の式辞に続き、佐野晴洋医学部長事務代理、半田 肇医学部附属病院長、村地 孝医学部教授（本短期大学部初代主事）及び尾崎 明京都府衛生部長から祝辞が述べられ、岡本道雄本短期大学部初代学長などからの祝電も披露された。

記念式典に引続き、学内施設を供覧後、祝賀会が開かれた。また記念行事として本年11月頃には本短期大学部の10年史を刊行する予定である。

本短期大学部は、医学の著しい進歩・発展に伴い、高度の医療に不可欠の医療技術者の確保とその質的向上が特に要望され、昭和50年4月22日に

京都大学に併設されたものである。

短期大学部開設時には、看護学科（学生定員80名）及び専攻科助産学特別専攻（学生定員20名）がそれぞれ従来の医学部附属看護学校及び同助産婦学校を母体として設置され、ついで昭和51年には衛生技術学科（学生定員40名）が医学部附属臨床検査技師学校を母体として設置された。また、現代社会の急速な発展と変化は、各種災害・成人病疾患等の後遺症による身体障害者等を増加させており、これら障害者を社会生活に復帰させるための機能回復訓練に従事する技術者を育成するために、昭和57年4月、理学療法学科（学生定員20名）・作業療法学科（学生定員20名）が設置され、今日に至っている。

言うまでもなく、医療は医師と医療技術者が一体になって支えるものであるが、最近の医療技術の進歩はきわめて急速で、かつその内容も複雑多岐にわたっている。将来の健全な医療の発展には、高度の専門医療技術者の養成を望む社会の要請と期待は大きい。

このような現状に鑑み、本短期大学部は、創立以来の教育・研究上の貴重な経験や成果を踏まえて今後志向すべきところを的確に見さため、社会の要請と期待に応える所存である。

（医療技術短期大学部）

＜部局の動き＞

放 射 線 生 物 研 究 セ ン タ ー
研 究 棟 が 完 成

放射線生物研究センターでは、このたび医学部構内に鉄筋コンクリート造地上5階地下1階延面積1,547㎡の研究棟（表紙写真）が完成し、5月30日、医学部解剖学講義室において、学内外からの来賓、関係者等多数の参列のもとに竣工披露式典を挙行了した。式典は午前10時30分に始まり、鳥塚莞爾センター長の式辞、沢田敏男総長の挨拶（久保庭信一事務局長代読）、来賓祝辞、感謝状の贈呈があり、11時に終了した。引き続き新研究棟の全室が公開され、列席者に披露された。

本研究センターは、昭和51年5月に京都大学附置の全国共同利用施設として設置され（本広報No.126参照）、現在、放射線システム生物学研究部門、突然変異機構研究部門、晩発効果研究部門の固定部門3と核酸修復研究部門（客員）の流動部門1よりなる。創設以来、独自の研究棟がなかったので、国際並びに国内シンポジウムやワークショップ等を数多く開催するなど研究交流活動に重点をおいて今日にいたった。このたびの研究棟の新営に伴い、従来の活動に加えて来所研究も可能となった。新研究棟は、4階のほとんど全域を放射性同位元素実験施設に、また、3階は全域を組織培養実験施設に当てるなど、共同利用研究が円

滑に行えるように配置されている。

現在の放射線生物学は、単に放射線の生物に対する作用の研究のみでなく、その機構研究は、発がん、突然変異、進化、分化、老化などの機構研究とも共通するところがあり、また、環境科学の

重要な基礎ともなっているように、典型的な学際領域である。それだけに共同利用研究が強く望まれている分野であり、研究棟の新営の意義はきわめて大きい。

(放射線生物研究センター)

<紹 介>

教 養 部 法 政 学 教 室

教養部の法政学教室は、学問的分野でいえば、法学・政治学を専攻する教官から成り、講義科目としては、法学・日本国憲法・政治学を担当している。『京都大学七十年史』に、昭和24年度と昭和41年度の「教養部の教室名と所属教官数」が載っているが、それによると、昭和24年度には、政治学教室という教室名で教官1名であったが、昭和41年度においては、法政学教室となり、所属教官数も6名となっている。現在も、法政学教室に所属する教官数は6名である。

一般教育における法学・政治学の講義は、単なる専門知識の教授ではなく、憲法の理念を体現した市民の形成、総合的な教養を身につけた人物の養成を目指して行われている。ゼミも、法学部のゼミと異なり、参加者が全学部にわたっており、非常勤講師として、弁護士の方にも来ていただいているという特徴がある。本年度行っている専任教官のゼミのテーマは、(1)国際人権法、(2)民法総則の判例研究、(3)判例を素材とした日本国憲法の解釈、(4)福祉国家の哲学的基礎の解明、(5)マックス・ウェーバー研究である。

この教室の構成員が現在行っている研究は、以下のとおりである。

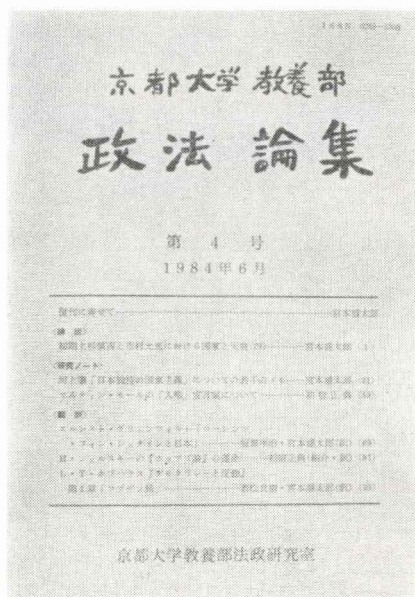
(1)国際法学の領域では、国際違法行為、とくに国際犯罪の研究を行っている。まず、犯罪の国際化に伴い、犯罪人引渡し、司法共助、庇護権など、国際法の関与する分野の拡大に対応して研究がなされている。次に、私人によって行われる犯罪であって犯行や犯人が複数国にまたがる国際テロ行為の頻発に対応して締結された諸条約の分析を行っている。第3に、「人類の平和と安全に対する犯罪の法典草案」や国家の国際犯罪について

の歴史的研究が行われている。その他、外国人の国際法上の権利義務の問題や人権の国際的保護の問題も研究テーマとなっている。

(2)労働法学の領域では、労働契約、賃金、婦人労働者(男女雇用平等法)、解雇など労働基準法に基づく労働者保護に関する研究をしており、社会保障法学の領域では、社会保険、労災補償およびそれと損害賠償との調整の問題について研究を進めている。

(3)憲法学の領域では、目下、とくにドイツを中心とする憲法論の研究が行われており、議会制度論、憲法裁判論、自然権・人権論、憲法史、などの分野での研究のほか、G・ライプホルツ、カール・シュミット、G・アンシュッツ等の法・政治理論の検討がテーマとなっている。

(4)政治学の領域では、④現代アメリカの政治哲学者たち(ロールズ、ノズック、ハイエク、パリー、ウンガーなど)の社会正義論の分析、⑤福祉



『政 法 論 集』

国家の倫理的基礎の探究, ㉔所有権の性格および限界の定式化, ㉕社会科学の世界における議論の論理と構造の解明, ㉖自由と平等, とくに機会の平等との関係についての考察が行われている。これらとならんで, 日・独・英の政治思想史家を比較政治思想史的方法で分析する研究や日本フェンズムについての史料収集と分析が行われている。

この教室の紀要として、『政法論集』(写真)

がある。これは, 昭和42年に創刊され, 昭和44年に第3号が出たまま, 休刊となっていたが, 昭和59年に復刊された。題字は, 京大事件で昭和8年に京大を去られた恒藤 恭先生の手になるものである。ひたすら真理を求めて, まっすぐに歩まれた先生の題字を冠したこの紀要は, 教室構成員の誇りである。

(教養部)

<資 料>

昭 和 60 年 度 新 設 の 組 織 ・ 大 型 設 備

今年度新設の専攻, 講座, 研究部門, 附属施設及び大型設備は次のとおりである。

専 攻

| 研 究 科 | 専 攻 | 講 座 |
|-------|------------------------|--|
| 医学研究科 | 分子医学系 専 攻 (独立専攻) | (基幹講座) 分子腫瘍学 分子遺伝学 分子病診療学 |
| | | (協力講座) 分子生物学 分子免疫学 分子生化学 細胞生物学 腫瘍ウイルス学 分子医学診断学 分子核医学 腫瘍外科学 分子放射線治療学 |

講 座

| 部 局 | 講 座 | 備 考 |
|-------|-------|-----|
| 理 学 部 | 形質発現学 | |

研究部門

| 部 局 | 研 究 部 門 | 備 考 |
|---------------------------|-----------------------|-------------------------------|
| 化学研究所 | 生理機能設計 | 昭和70年3月 31日まで存続 (時限10年) |
| 人 文 科 学 研 究 所 | 日 本 学 (外国人客員) | |
| ヘリオトロン 核 融 合 研究センター | 高温プラズマ 物 理 解 析 | 昭和70年3月 31日まで存続 (時限10年) |
| 超高層電波 研究センター | レーダー大気 物 理 学 | |
| | レーダー大気環境 科学(外国人客員) | |

附属施設

| 部 局 | 施 設 | 備 考 |
|-------|---------------------|-------------------------------|
| 工 学 部 | 環境微量汚染制御 実 験 施 設 | 昭和70年3月 31日まで存続 (時限10年) |

大型設備

| 部 局 | 設 備 |
|---------------------------|------------------------|
| 理 学 部 | トーラス型プラズマ実験装置 |
| 化 学 研 究 所 | 材料調整解析装置 |
| 結核胸部疾患 研 究 所 | R I 診断装置 |
| 原子炉実験所 | 1号炉共同利用研究実験設備 |
| ヘリオトロン 核 融 合 研究センター | ヘリオトロンE用ヘリウム液化冷 凍装置 |

昭和60年度創立記念行事学術講演会の開催

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記の学術講演会を開催します。本学教職員、学生の来聴を歓迎します。

記

日時 昭和60年6月26日(水)午後3時30分
から

場所 京大会館210号室

講師 藤原 元典(本学名誉教授)

演題 日本人の栄養について

講師略歴

1940年京都帝国大学医学部卒業。1949年京都大学医学部助教授。1959年教授。1979年退官。現在、京都府衛生公害研究所長。

同氏は、従来強壮剤として使用されていたニンニクの成分とビタミンB₁の化学反応を発見し、アリチアミンを単離した。このアリチアミン発見は、戦後のビタミン学界の飛躍的發展に貢献するとともに、今日ではその臨床的性質の優秀さにより世界の主要国をはじめ30か国以上の国民の健康増進に寄与している。また、カドミウム中毒等公害問題についても広く研究を行い、その業績は国際的に高い評価を得ている。1959年日本学士院賞受賞。医学博士。(学生部)

計報

臼井 竹次郎(本学名誉教授)

5月27日逝去、77歳。本学文学部卒業。昭和25年本学教養部教授就任、46年退官。その間評議員(43年～44年)を併任。同54年勲三等旭日中綬章受章。専門はドイツ語。

田岡 良一(本学名誉教授・法学博士)

5月29日逝去、87歳。本学法学部卒業。昭和15年本学

法学部教授就任、35年退官。その間評議員(18年～20年、21年～23年及び28年～30年)、法学部長(25年)を歴任。同39年日本学士院会員。43年勲一等瑞宝章受章。専門は国際公法。

富岡 平治(教養部閲覧掛長)

5月29日逝去、48歳。昭和31年4月法学部勤務、医学部を経て52年教養部閲覧掛長。同51年本学永年勤続者表彰(20年勤続)を受ける。

日誌

(1985年5月1日～5月31日)

5月7日 評議会

ク 大学院審議会

ク スリランカ民主社会主義共和国 Colombo 大学 Stanley Wijesundera 副学長 来学、総長と懇談及び学内施設見学

8日 総長、オーストラリア及びニュージーランドの高等教育・研究機関の視察並びに学術交流に関する意見交換のため両国を訪問(15日まで)

10日 中華人民共和国武漢大学 戴 礼 彬 副学長外2名来学、総長事務代理及び関係教官と懇談並びに学内施設見学

11日 中華人民共和国大連外国語学院 劉 和 民 院長外4名来学、総長事務代理及び関係教官と懇談並びに学内施設見学

15日 国際交流委員会

ク フランス共和国 Paris 第11大学 Hubert Coudanne 学長及び Lille 第1大学 Jean Cortois 学長外1名来学、総長事務代理及び関係教官と懇談

17日 タイ王国 Chulalongkorn 大学 Kasem

Suwanagul 学長外2名来学、国際交流委員会委員長及び関係教官と懇談並びに学内施設見学

18日 ドイツ連邦共和国 Berlin 市 Eberhard Diepgen 市長外3名来学、総長及び関係教官と懇談

20日 発明審議委員会

21日 評議会

22日 中華人民共和国 白求恩医科大学 訪日代表团 劉 樹 錚 団長(校長)外11名来学、総長及び関係教官と懇談並びに学内施設見学

23日 中華人民共和国 吉林大学 友好訪問団 伍 卓 群 団長(副校長)外5名来学、総長及び関係教官と懇談並びに学内施設見学

24日 医療技術短期大学部創立10周年記念式典

27日 学位授与式

29日 中華人民共和国 山東大学 学術交流代表团 鄧 從 豪 団長(校長)外4名来学、関係教官と懇談及び学内施設見学

30日 放射線生物研究センター研究棟竣工披露

31日 建築委員会

